

# 日本整形外科学会

平成 24 年 2 月 17 日, Version 2.0

## 自殺総合対策大綱改正に向けてのレビュー報告書

公益社団法人日本整形外科学会

理事長 岩本 幸英

### 1) 平成 24 年に見込まれる自殺総合対策大綱の改定において要望する内容

- ・ 精神疾患以外の自殺の医学的背景因子 ( 運動器疾患、慢性疼痛等 ) の明確化
- ・ 自殺予防に関わる医療的・社会的ケアシステム ( 施設 ) 整備への方策明示
- ・ 自殺防止における学際的アプローチの重要性への言及

### 2) 現在または今後、わが国で必要な科学的根拠に基づく自殺予防活動

#### 目標 :

自殺に結び付く運動器の慢性疼痛および障害に対するケアの充実を図る

#### 論理的根拠 :

自殺により死亡する慢性疼痛患者の割合は一般人の約 2 倍であり、患者の 5-14% が自殺を企図し、約 20% が自殺念慮を抱いている ( 文献 1,2 )。中でも慢性腰痛患者の自殺頻度が高く、10 年間の追跡で疼痛のない対照群に比べ 10 倍の自殺頻度を示す ( 文献 3 )。最近の大規模調査では、日本人成人の 22.9% が慢性疼痛を有しており、その大部分が腰痛、頸部痛などの運動器の痛みである ( 文献 4 )。運動器慢性疼痛患者に対する自殺予防対策は喫緊の課題だと言える。慢性疼痛に関連する自殺の危険因子としては、1) 疼痛の強度・持続時間のほか、2) 疼痛による睡眠障害、3) 疼痛に関連する孤立感と絶望感、4) 疼痛から逃避したいという願望などが指摘されており ( 文献 1,2 )、心理的・社会的ケアの必要性が強調される。

また、慢性疼痛のほかにも、運動器の著しい機能障害をきたす脊髄損傷患者の自殺死亡率は一般人の約 10 倍であり ( 文献 5,6 )、関節リウマチ、脊椎疾患患者においても自殺率が高い ( 文献 7,8 )。運動器の機能障害も自殺の原因として注視すべき問題であり、その背景には慢性疼痛と同様の心理社会的因子が関与しているものと思われる。

#### 現在の政策的背景 :

近年、国民の健康増進・生活の質向上の観点から、慢性疼痛対策の重要性が強調されており、2010 年には厚生労働省健康局の「慢性の痛みに関する検討会」が慢性の痛み対策についての提言を公表している。しかし、わが国における慢性疼痛の実態は十分に明らかになっておらず、慢性疼痛の診断・治療体系もまだ確立されるに至っていない。

一方、慢性疼痛症例に対する心理療法・カウンセリングに対する保険診療加算が認められていない、治療薬の多くが保険適応外であるなど、慢性疼痛に関する診療環境は十分に整備されていない。また、慢性疼痛患者、身体障害者に対する社会的サポートシステムも十分に機能しているとは言い難い。

鍵となる活動領域：

- 1) 一般住民、医療関係者に対する慢性疼痛とその心理社会的要因に関する啓発活動
- 2) 診療科間、医療者間、医療 - 行政間等における連携体制の構築  
学際的ペインセンターの全国的設置・整備
- 3) 慢性疼痛の心理社会的ケアに関する専門医・専門スタッフの養成
- 4) 運動器慢性疼痛・障害に関する診療体制・環境の整備
- 5) 運動器の慢性疼痛・障害を有する患者に対する社会的支援・ケアシステムの充実

今後必要な政策：

- 1) 自殺の背景になりうる運動器の慢性疼痛や障害が、身体的な問題以外にどのような社会的な問題、心理的影響を引き起こすのかに関する調査を行う。
- 2) 運動器慢性疼痛に対する心理療法や学際的治療に対する診療加算など保険診療上の改善策を講じる。
- 3) 慢性疼痛診療のための学際的ペインセンターを全国各地に設置するための予算措置を講じる。
- 4) 慢性疼痛治療に使用する麻薬系鎮痛薬（オピオイド）や向精神薬の乱用を防止するためのガイドライン作成等の対策を講じる。
- 5) 運動器慢性疼痛患者や機能障害患者に対する社会的支援システムを構築・整備する。

文献リスト：

- 1) Tang NK, Crane C. Suicidality in chronic pain: a review of the prevalence, risk factors and psychological links. *Psychol Med.* 2006; 36:575-586.
- 2) 堀川直史, 倉持泉, 樋渡豊彦, 大村裕紀子, 國保圭介, 内田貴光, 安田貴昭. 身体表現性障害における自殺. *精神科治療学.* 2010; 25 : 179-185 .
- 3) Penttinen J. Back pain and risk of suicide among Finnish farmers. *Am J Public Health.* 1995; 85:1452-1453.
- 4) 松平 浩, 竹下克志, 久野木順一, 山崎隆志, 原 慶宏, 山田浩司, 高木安雄. 日本における慢性疼痛の実態. - Pain Associated Cross-sectional Epidemiological (PACE) survey 2009.JP - ペインクリニック. 2011; 32:1345-1356.
- 5) 内田竜生, 住田幹男, 徳弘昭博. 脊髄損傷者の自殺とその背景要因. *日本脊髄障害医学会雑誌.* 2003; 16:204-205.
- 6) Ahoniemi E, Pohjolainen T, Kautiainen H. Survival after spinal cord injury in Finland. *J Rehabil Med.* 2011; 43:481-485.
- 7) Timonen M, Viilo K, Hakko H, Särkioja T, Ylikulju M, Meyer-Rochow VB, Väisänen E, Räsänen P. Suicides in persons suffering from rheumatoid arthritis. *Rheumatology (Oxford).* 2003; 42:287-291.
- 8) Miller M, Mogun H, Azrael D, Hempstead K, Solomon DH. Cancer and the risk of suicide in older Americans. *J Clin Oncol.* 2008; 26:4720-4724.

( 報告書作成担当：運動器疼痛対策委員会 )